

2008 年

10 月 23 日（木曜日） - 産業のひとづくり わが国ものづくりの発祥の遺伝子を鍛え育む -

本日、待望の府北部地域の産業人材育成・振興拠点「丹後・知恵のものづくりパーク」が完成し、開設式典が山田京都府知事、永守日本電産社長はじめ大勢の関係者の皆さん、市内外のものづくり業界の皆さんが出席され盛大に開催されました。待望の府北部の人材育成・産業振興拠点がこのように立派に完成しましたことは、本市はじめ丹後にとって大きな喜びであり、京都府、京都産業 21、日本電産様をはじめ全ての関係者の皆様に、心より深い感謝を申し上げます。

さて、本市は、かつて古代の時代、金属化学系のものづくりの分野では、関係遺跡の存在から日本最古の製鉄コンビナートや日本最古のガラス玉製造工場があったとされるところとともに、織物ものづくりの分野でも、奈良の正倉院が丹後から献上された絹織物「あしぎぬ」を長く現在まで保存保管しておくほど、当時として我が国最先進の産業が栄えた、いわば我が国の本格的な「ものづくり発祥の地」の一つであると考えられます。

その後、ものづくりの営みが当地の歴史の中で営々と重ねられる中で、現在、当市の機械金属業、織物業などのものづくり産業は、我が国ものづくりの発祥地の遺伝子を確実に受け継ぎ、これら産業の高度で多様な技術を保有する素晴らしい集積地である一方、当地にはこれからの社会に求められる環境、健康、癒しなどの価値や資源に恵まれ、今後、これらの産業資源を体系的に活用したものづくりの推進と発展がますます期待されております。

他方で、ただ今の現況として、本市は織物業の構造的な不振はじめ全国的な不況の影響も重なり厳しい経済の状況に直面しておりますが、このような中で、産地としてしっかりと踏ん張って、ますますの発展を中長期に持続的に期していくためには、やはり何とんでも、ものづくりの原点そのものである「ひとづくり」に改めて腐心尽力していくことが最重要であろうかと思えます。本日は、この点、「ひとづくり」の府北部最大の拠点である「丹後・知恵のものづくりパーク」が本格オープンしましたことは、丹後産地が有している我が国ものづくり発祥地の遺伝子を今後大いに鍛え育んでいただいて、丹後地域はじめ府北部、近畿北部の産業の持続的でますます魅力的な振興に大いに寄与していただけるものと確信をしています。

そして本日は、もう一点、ひとづくりのための素晴らしいプレゼントをいただきました。本パークの建物、土地を提供していただいた日本電産（株）の永守社長様から、「ひとづくり、ものづくり経営」と題して大変貴重なオープン記念講演をいただいたものです。日本電産様は、昭和 48 年に創設され、そして草創の昭和 57 年に本市峰山町に、本パークへと今回生まれ変わった主力工場を建設、峰山工場とともに草創期を築かれ、

現在、年商1兆円に届こうかという業界のリーディングカンパニーとなっております。この間、鵬（おおとり）の揺籃期を共にさせていただき、また丹後地域の産業発展に多大な貢献をいただき、心から誉と感謝を感じております。そんな深いご縁を賜ります中で、今回、永守社長からご講演をいただきました。

お話の中で感銘を深くしましたのが、「困難は必ず解決策と一緒に連れてくる。」という御体験に裏打ちされた信念。そして、「好況のときはどの会社も差がつかない。差がつくのは不況のときだ。厳しいときこそチャンスがある。」。さらに「どんなときでも"ファイン"と言おう。困難は逃げても逃げても追いかけてくる。困難を迎えにいくくらいが必要だ。」「だから、私は、"困難"に礼をもって接し、"困難さん"と呼んでいる。」というお言葉。さすが一代でリーディングカンパニーを育てられた永守イズムの真髓に接するような思いでした。本日は「ひとづくり」のための本パークが本格的に稼動するにあたり、そんな素晴らしいお話を聴かせていただいて、「ひとづくり」の核となる魂の芯を入れていただいたようであり、今後、この精神をひとづくりの根本に賜り、困難を貴重な糧に、丹後産地のひとづくりと産業の復興に粘り強く、末永く励んでいきたい。